

令和5年度 鎮西高等学校 学校評価

1 教育方針 (建学の心)

本校は県下唯一の仏教系の私学で、仏教精神教育の基盤としています。学校には信仰の象徴である仏像を安置し、仏教の教えを具体化した「誠・信・望」の校訓のもと報恩感謝の心と穏健中正な態度で、社会に貢献できる有能な人材を育成することを目標としています。

2 本年度の教育重点目標 (努力目標と実践項目)

報恩感謝・・・国恩・親恩・衆生恩・三宝恩に感謝し、四恩塔に一礼しよう
 学力向上・・・予習して授業に臨み、疑問を残さないようにしよう
 環境美化・・・整理整頓を行い、ゴミを出さないようにしよう
 礼節堅持・・・礼儀を重んじ、正しい言葉遣いを心がけよう
 身体錬磨・・・規則正しい生活をし、体を鍛え、早寝・早起き・朝ご飯を心がけよう

3 自己評価総括表

NO1

	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
総務部	少数人数でも仕事の一部の職員に集中しないように、共通理解を深め、分担する。 総務としては、部署内の人数を増やして負担を軽減するよう改善しなければならない。	① 職員全体で共有して、総務の仕事量の多さを理解してもらい、皆で支えあえるように仕事を分散した。 ② 学年諸費の徴収は、次年度からコンビニ支払いではなく学年ごとの通帳にする。 ③ 鎮西通信、育誠会だよりを発行して共通の認識を深める。 ④ 学校行事毎に、動画・写真などの記録を残した。	A A B A	① コロナ禍が明け、すべての学校行事が戻る中でコロナ禍以前以上に、行事に対する取り組みに盛り上がりが見られた。 ② 学年諸費について、納入方法を見直し、次年度に向けてより学年で取り扱いやすい方法に転換する準備を行った。 ③ 鎮西通信、育誠会だより、学校要覧. を発行できた。 ④ コロナ禍明けに生徒活動が活発になった様子を、記録に細かくおさめることができた。
教務	①「コロナ5類」以降に対応した規定の対応、その他の教務部に関する情報等の全職員への周知徹底 ②生徒の学力保証のための授業時間数の確保 ③教育課程や教務規定、その他の教務部に関する情報等の全職員への周知徹底 ④他部署との連携、情報共有	①学校行事の事前把握を確実に行うと共に、学期ごとの定期考査の実施、通常授業における教科担当者の事前準備の充実化が図られた。 ②田張や年休等による振替授業を徹底や、また、自習時間における課題作成の徹底化を図った。 ③新課程導入の2年目に入り、観点別評価の対応も、各教科で充実化がはかられた。 ④学校行事等においては総務と連携を図りながら定期考査等の日程の取り決めを図った。入試問題作成では試験範囲を生徒募集部と連携を図り各教科に情報と連携と支援を得られた。	B B A A	①現在の業務を次年度も実施することで、円滑な授業実施が見込める。 ②情報提供は前年度よりはかなりできたが、新課程に伴う教育課程委員会、教科主任会、奨学生委員会等を開くことができなかった。次年度は情報提供のより充実化も含め、教育課程委員会、教科主任会の機会を増やし、検討する機会を増やしていきたい。 ③④総務部や事務局との連携はしっかりと実現できた。突発的な変更事項が多く連絡事項も多かったが、管理職、総務、各教科生徒募集部等の支援で業務を処理することができた。
生徒指導	①品性ある身だしなみやマナーを心得た生徒を育成する ②携帯電話やスマートフォンを授業に関係しないときに校内で使用させない指導の徹底 ③いじめ防止	①教育活動(授業・HR・部活動等)において、指導開始時に服装指導を徹底するとともに心の込もった挨拶、礼のできる生徒を育てる。 ②携帯チェックシートを導入後、校内で授業に関係ないときに使用するケースは減少した為、学年と平日頃から連携し、トラブルになる具体的な事案を伝え校内で使用しないように呼びかける。 ③いじめ問題は、早期発見や早期解決、未然防止に向けて、チームで対応することが大事になる。アンケートや聴き取りによりいじめの早期発見に努めるとともに、日常的に担任、学年、関係職員間で情報の共有化を図る。	B C B	①日常的に男女共に違反者が多く散見された為、全職員で違反者に対する個別指導を実施した。毎朝のHRでの担任からの指導も今後も徹底していきたい。一方で、服装・頭髪検査での違反者減少傾向にあった。 ②昨年度授業中の携帯電話やスマートフォンの使用での違反者は57人であったが、今年度は77人と増加した。次年度は、チェックシート自体を見直していきたいと考える。また、担任、学年とも連携を図り指導をしていきたい。 ③いじめ問題は生徒の変化を感じ、早期発見・早期対応が重要になる。全職員でいじめは絶対に許させれないという姿勢を平日頃から、生徒に伝えていく必要がある。今年度は、いじめアンケートの実施により早期に気になる事案を個別面談で対応することができた。
進路指導	① 職業観の育成・進路目標設定。 (生徒の社会的自立に向けて、高校生として必要な基礎となる能力や態度を育てる) ② 受験対応学力向上を目標とし、必要に応じて情報を提供し、指導・支援に全職員で臨む。 ③ 受験生の進路実現に向け、全職員で指導・支援にあたる。	① 特に各学年部・教務部と連携し、学校全体で進路意識の高揚をはかり、進路目標を設定させる。各クラスにおいて進路希望調査・面談などを実施し、生徒一人ひとりの進路希望を把握する。ハローワークや公務員関連専門学校との連携を強化し、講話や課外授業を実施する。 ② 生徒に対して、学校案内・会社案内・求人票など。必要に応じた情報を提供する。また、進路指導部所属職員による進学・就職相談を実施する。 ③ 受験生に対しては、以下の手だてを講じる。校内模試・対外模試・添削指導(強化学習・小論文・願書などに係る提出書類)・日常的な礼法マナー教育・面接指導など。	A B B	① 3学年については担任の移動はあったものの、新学期当初より進路に向けての指導ができた。また専門学校との連携で放課後公務員課外をすることができたが、来年度は更に強化をはかりたい。 1・2学年においては、お仕事体験フェア・外部講師による就職講話・進路ガイダンスなどを実施し、進路意識を持たせることができた。来年度も継続して取り組みたい。 ② 3学年については、進路意識が高く、進路指導室の利用、オープンスクールなどへ積極的に参加し、情報収集を行っていた。求人票については、本年度よりWEBでの閲覧ができる制度を導入し、家庭内で保護者と一緒に各会社の情報を得られるようにした。進路指導室では、放課後に自主的に学習に取り組む生徒が増え、合わせて学習指導をすることもできた。 ③ 3学年に対しては適切な指導はでき、希望者に対しては100%近くの進路実績を残すことができたが、基礎学力のさらなる向上にむけてより一層の指導強化が必要である。

	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
保健体育	①新型コロナウイルス以降における授業の実施 ②体育大会の実施 ③囚スポーツテストの実施 ④鹽歩会の実施 ⑤囚スポーツ大会の実施 ⑥令和6年度へ向けて	①引き続き校内・クラスの感染数を完全に把握 更衣室の設定、十分な広さを確保 ②4月時に体育大会を実施。 感染拡大防止の観点から午前日程を終了。 ③4月の3週目を実施。様々な感染防止策。 ④11月に屋外施設を利用して実施 ⑤3月に高校1・2年生で実施 男子・サッカー 女子・ミニバレーボール ⑥用具の確保（鎮西真和共用） 水泳のスタート 教科会	B B B A A	①更衣の時間を十分に取り、密にならないように指示を徹底した。 ②熊本県市内の行動制限、様々な感染状況を勘案し総合的に判断。R6からは、種目を増やして終日日程へ。 ③事後のデータ整理において、授業時での実施、データカードの集計方法の徹底が不足した。 ④途中リタイヤの生徒の取り扱いを事前に連絡しておく必要があった。 ⑤組合せ等、進行は生徒会中心。女子生徒に受傷者1名。来年度はケガの予防を徹底。 ⑥学期に1度のスポーツ大会の実施 選択授業の導入等 教科会の定期実施
生徒募集	①「令和6年度入学生生徒募集について早期に方向性を固める」 ②「各種メディア（テレビCM・特集番組、雑誌、新聞など）を介した広報活動について検討する」 ③「オープンスクールや学校説明会、授業体験会の日程、会場、内容について精査し、集客を高める」 ④「Web出願・合格発表について（3年目）Web出願の利便性や汎用性を利用する」 ⑤志願者数・入学者数の増加（選択科目制7年目） 選択科目授業内容を充実させる。	①・早期（4月中）に入試大綱の決定。募集部として年間計画を立て、職員会議で全職員に周知を図る。 ②・各種メディアを介した広報活動は行わないが、選択科目ごとの動画を制作し、ホームページ上で紹介する。 （各種メディアを介した広報活動を取りやめた理由は繁忙期と各締め切りなどが重なり、対応が追いつかないため） ・学校案内やホームページへの掲載、SNS等を活用する。 ③・近年、校外で開催したオープンスクールの形から会場を校内に移して開催する。 ・開催時期については職員の意見をもとに決定。体験日は2日間設定する。（8月上旬と9月上旬に実施） ・学校概要説明をする担当職員を増やす。 ・生徒会や在校生の出番を増やす。 ・選択科目授業体験会の内容を充実を図る。 ④・各種説明会の参加者と入学者との照合をする。 ⑤個性を伸ばす教育内容の充実、地域社会への貢献、学校行事の充実、生徒や保護者、地域から信頼される学校になるように学校全体で努力する。	A B A A A	①年度当初に年間計画を立て、部会で内容を十分に検討し、職員全体への周知もできた。 ②自校開催のイベント情報の告知は学校案内やホームページに適宜掲載して広く知らせた。各種メディアを介した広報活動は行わなかったが、イベント参加者数は微増、受験者は増加したため影響はなかったといえる。次年度はホームページの更新頻度を高めたい。 ③オープンスクールを数年ぶりに校内で開催した。校外で開催するのも悪くないが、今年度のように校内で開催した方が中学生や関係保護者には本校の魅力が伝わったように感じた。説明会后、体験会ができることが良かった。また、今年度は学校概要説明の担当者を固定せずに行った。研鑽の意味でも良かったように思う。 ④グラフィックデザインとダンス科目の入学生はオープンスクールや体験会、学校説明会へ積極的に参加し、専願生入試を受験している。一方で、進学・就職科目受験者は併願・一般生入試受験者の大半を占める。この科目の受験生は説明会への参加後、本校受験を決めた中学生は少なく学校案内から情報を収集して受験に臨んでいる印象を受けた。学校案内の紙面構成は重要だと感じた。 ⑤教育内容の充実を図り、入学者数の増加をめざす。全職員が現状に満足せずに時代のニーズを敏感にキャッチするアンテナが必要だと感じる。
事務局	①校納金の受納事務を的確に行い滞納等がないようにする。 ②就学支援金、授業料減免等経済的に支援する制度については速やかな事務処理を行う。 ③就学支援金WEB申請への対応 ④ビーチバレーコート建設 ⑤教室内外環境整備	①毎月、滞納者リストアップ。滞納者への督促及び担任、学年主任への督促依頼 ②就学支援金については全員が申請するよう（もしくは辞退の意思表示）、授業料減免については希望者がもれなく申請するよう周知。 ③新入生には入学説明会時に就学支援金の概要からわかりやすく説明。 ④期限内に完了できるよう密な打ち合わせを行いスケジュール管理を行う。 ⑤改修等必要箇所のリストアップ。 優先順位をつけヒアリング。	A A A A A	①長期滞納者減につながった。 ②保護者への文書やメールにより周知できた。 ③WEB申請は問題なく行えた。 各教室にプロジェクター設置することができた。 ④年度末までに完成することができた。 工事中もこまめな連絡を取ることができた。 ⑤改修必要箇所はもれなく改修することができた。比較的大きな改修ではトイレ改修工事を完了することができた。
高校1年	①基本的生活習慣の確立 ・欠席、遅刻、早退への対応 ・頭髪・服装の意識づけ ②自己実現に向けた生活の充実 ・学力の向上 ・進路実現への意識	①・頭髪服装検査の際だけでなく、朝のHRや授業時に声かけし、身だしなみを整える機会を作る。 ・生徒の欠席・遅刻の連絡については必ず保護者から連絡してもらおう。欠席や遅刻の連絡がなく生徒が来ていない場合には必ず保護者に連絡を取る。 ②・授業以外にも放課後に学習会を開催するなど自主的に参加する機会を作る。2者面談、3者面談を行いながら、家庭での学習機会を促す。 ・進路指導部と連携をとりながら、各種説明会、ガイダンス等へ参加し、進路実現への意識を高める。	B B	①頭髪や服装についての指導も毎考査後確認し、必要に応じて本人・保護者と話をしながら改善に努めたが、定着とまではいかず課題が残った。欠席については各担任が欠席した生徒への連絡を徹底して行い、悩みや欠席の多い生徒にはSSWのカウンセラーとも連携して、適宜面談・家庭訪問等を行った。遅刻については、数が多くなかなか減らなかったため次年度の課題である。 ②クラスによっては考査前に不安感のある生徒、自主学習したい生徒へ学習会を実施していたが、一部の生徒に留まった。全体での学習会を増やす必要があると感じた。また、担任と教科担任が連携を密にししながら、2者面談やHR活動の中で、それぞれの生徒が自分の進路を考えることができた。外部で行われる進路講話、ガイダンスへ参加をさせてもらい、生徒からも好評の元、進路への意識を高めることができた。

	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
水泳部	<p>① 学校生活の中で必要な自主性・社会性や他を尊重する態度を育てる。</p> <p>② 九州大会、全国大会で活躍できる人材の育成をする。</p>	<p>① 基本的な生活習慣（挨拶・礼儀・報連相・身だしなみ）を養うことができるよう、学校生活、競技面など目標を細分化し自ら設定する。その達成度を評価していく。また、個別に面談をしながら自分の思いを話す場を設定する。</p> <p>② 学校生活同様、目標設定を明確化し、シーズンの区切りごとに評価・改善しながら振り返りをする。各種測定を行いながら練習タイムの設定をする。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>① 昨年同様、学校生活において身だしなみが整っていない生徒もおり、水泳部としての自覚を持ち常に見られているという意識のもと生活を送っていく必要がある。今後の課題として改善していきたい。</p> <p>目標設定の仕方において、自己の目標と現実がかけ離れていたりと、過小評価している生徒が多いため、自分の力を知り、必要なことが何か考える力を付けてもらいたい。</p> <p>② 個人種目であったが全国大会へ出場することができた。九州大会でも表彰台、決勝進出する生徒が増えた一方、部内での泳力の差が出てきた印象がある。練習内容を考える上でボトムアップを計るとともに上位進出を目指すための練習の工夫をしていきたい。</p>
柔道	<p>① 生活態度（学校生活）の改善</p> <p>② 基本的な行動の徹底</p> <p>③ 学習指導の徹底</p> <p>④ コロナ5類以降の対応</p> <p>⑤ 基本技能の習得</p> <p>⑥ 体力錬成</p> <p>⑦ 練習試合</p> <p>⑧ スカウト活動</p> <p>⑨ 下部組織の発足（育成とスカウトの両立）</p>	<p>① ミーティングの内容の充実</p> <p>② 挨拶や返事等の具体的な指示の徹底</p> <p>③ 時間厳守や礼儀正しい態度の指導徹底・授業態度や課題提出の厳格化</p> <p>④ 手指消毒、施設消毒</p> <p>⑤ 試合成果を第一に置かず、徹底した基本練習</p> <p>⑥ 欠かさないトレーニング</p> <p>⑦ コロナ5類以降におけるの対外試合</p> <p>⑧ 足を運んでのスカウト活動の実施</p> <p>⑨ 関係各所との様々な交渉</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>D</p>	<p>① 校内外での問題行動等の把握</p> <p>② 遠征先や寮生活での把握</p> <p>③ 報告連絡相談のチェック充実・授業担当者との密なやり取り</p> <p>⑤ 校内外での練習試合時に習熟度をチェック</p> <p>⑥ 指導者による経過観察指示</p> <p>⑦ 基礎力向上と対応力向上の実戦を見据えた強化ができた。</p> <p>⑧ 中学生の試合を1度も視察に行けるタイミングがなかった。</p> <p>⑨ 令和5年4月からの始動（現在小中学生5名在籍）</p>
剣道	<p>① 活動環境の整備</p> <p>② 基本的な生活態度の確率</p> <p>③ 技術面・精神面でのレベルアップ</p> <p>④ 自主性・協調性・リーダーシップの育成</p>	<p>① 練習前後の掃除、各学期の大掃除、使用器具や用具の点検</p> <p>② 挨拶、礼儀、準備と片付け、積極的な授業参加、提出物の徹底</p> <p>③ 練習内容やトレーニングメニューの工夫、錬成会や昇段審査・講習会への参加、九州大会や全国大会への出場</p> <p>④ 自主練習や練習計画の作成、グループワークと各学期1回の発表</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>① 日々の掃除はできていたが、大掃除については指示されないといけない場面がみられた。</p> <p>② 欠席もほとんどなく、挨拶や準備も概ね良好だった。礼儀も身につけ、好感を持てる生徒が多い。</p> <p>③ 意識の高まりや集中力がつき、生徒それぞれが各自の課題に取り組むことが出来るようになったため、錬成会での勝率も上がり、高校総体や玉竜旗での好成績につながった。九州大会では個人戦準優勝、国体熊本代表選手として3位入賞を果たした。また、昇段審査には全員が合格している。</p> <p>④ グループワークでは、意見を出し合い協調性をもって取り組めたが、発表の仕方においては個人差があり、課題もある。</p>
ダンス	<p>① 部活動をととして、自己の基本的な生活習慣を確立させる。</p> <p>② 部活動をととして自主性や協調性、礼節を身に付け、社会に通用する人材の育成に努める。</p> <p>③ 全国大会での上位を目指した個々の技術の向上と観客を魅了する高い表現力を育成する。</p>	<p>① 規則正しい生活習慣を心がける。特に、就寝時間や起床時間、体調管理および食事等に気を配る。</p> <p>② 月間活動計画表を配付し、生徒自身が目標達成のために必要な計画を立てる。イベント出演や大会参加、校外練習、卒業公演時に、業者の方や異年齢間の人との関わりを通して礼節を身に付けさせる。</p> <p>③ 技術面においては、体力づくりを惜しまず体幹を鍛えるトレーニングや基礎基本の動作を忠実に取り組む。表現力、表情についてはメロディーや行間を読み、歌詞の真意を載せてダンスで表現できるようにする。土曜日は卒業生コーチに指導してもらう。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>① 部全体で見ると概ね良好だったが、遅刻や欠席を繰り返す生徒は固定してしまい、その生徒に改善させることができなかった。家庭と連携して継続指導をしていきたい。</p> <p>② 例年、自主性や協調性、礼儀などが身に付いていない新入生が多く入部する。今年度も例年同様、年度当初に躓きはあったがその後は解消された。部活動や学級活動を通して少しずつではあるがチームの一員としての責任感や連帯感が芽生えてきたように感じる。卒業公演の企画・運営をすることで様々なことを学び、自己肯定感を高められたように感じた。今年度は特にイベント出演が増え、様々な面において経験も積むことができた。</p> <p>③ 高校ダンス部の大会は、様々なダンスのジャンルが混在し、大会ごとに異なる審査基準が設けられている。「鎮西らしさ」という作風は全国で確立しており、ファンも多い。しかしながら、今年度は入賞することができず厳しい結果となった。卒業生コーチは部員の技術向上のために尽力してくれた。</p>